

# 支所庁舎(旧町役場) 整備方針について

平成29年11月

 五 島 市

# 支所庁舎の現状

区分		建築時期	経過年数	耐震診断の結果(Is値)	耐震化の必要性
富江支所	本館	S37. 12	53	0. 32	○
	別館	S37. 12	53	1. 15	
	議会棟	S58. 3	33	新基準	
	増築棟	H11. 2	17	新基準	
玉之浦支所	本館	H6. 1	22	新基準	
三井楽支所	本館	S43. 7	48	0. 43	○
	増築棟	S58. 3	33	新基準	
岐宿支所	本館	S46. 8	45	0. 28	○
	新館	H9. 3	19	新基準	
奈留支所	本館	S46. 7	45	0. 11	○
	増築棟	S57. 3	34	0. 51	○

# Is値（構造耐震指標）

**【震度6強規模の地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性】**

**Is値0.3未満**                      ⇒ **危険性が高い**

**Is値0.3以上0.6未満**            ⇒ **危険性がある**

**Is値0.6以上**                      ⇒ **危険性が低い**

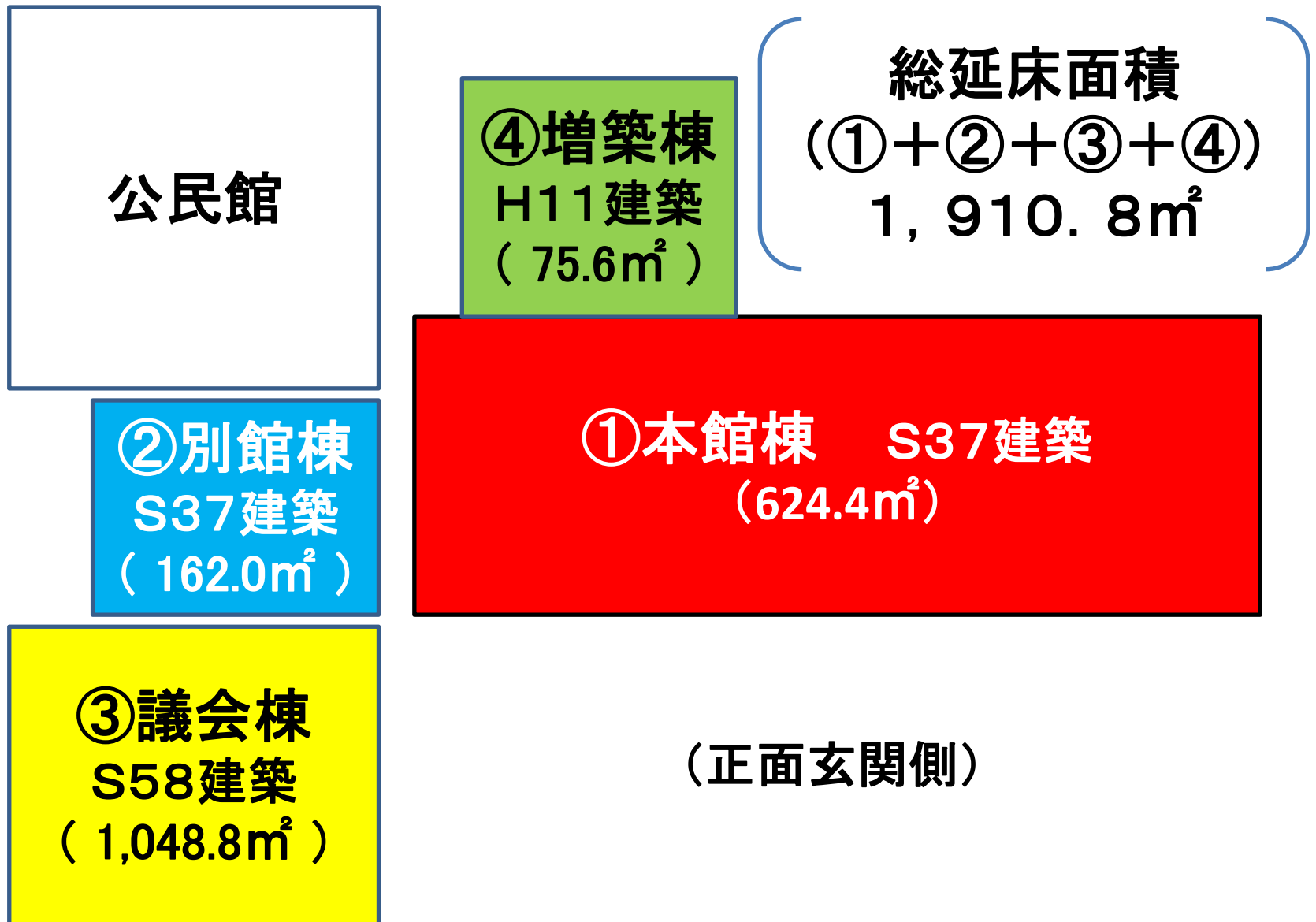
※特定建築物の耐震診断及び耐震改修に関する指針(国土交通省)

# 富江支所庁舎の現状



①本館	S37. 12建築	624. 4m <sup>2</sup>
②別館	S37. 12建築	162. 0m <sup>2</sup>
③議会棟	S58. 3建築	1, 048. 8m <sup>2</sup>
④増築棟	H11. 2建築	75. 6m <sup>2</sup>

# 配置イメージ (現在)



# 富江支所庁舎のIs値（耐震指標）



①本館 S37建築 Is値=0.32

②別館 S37建築 Is値=1.15

③議会棟 S58建築(新耐震基準)

④増築棟 H11建築(新耐震基準)

耐震NG

耐震OK

耐震OK

耐震OK

# 庁舎整備の必要性とこれまでの経緯

- 富江支所本館は、昭和37年に建設し老朽化が進んでいる
- 耐震診断の結果、大規模な地震に対して倒壊または崩壊の危険性があることが判明



〔 消防出張所の老朽化  
公民館の老朽化 〕



**支所本館、消防出張所および公民館を  
合築も含めて整備を検討する(方針を検討)**

整備の方法（第1案）  
「旧富江高校敷地に消防出張所・  
公民館と合築で建替え」

メリット	合築による費用の削減。 アクセスしやすい。
デメリット	公共交通機関を利用し ての来庁が不便。

旧富江高校敷地

国道

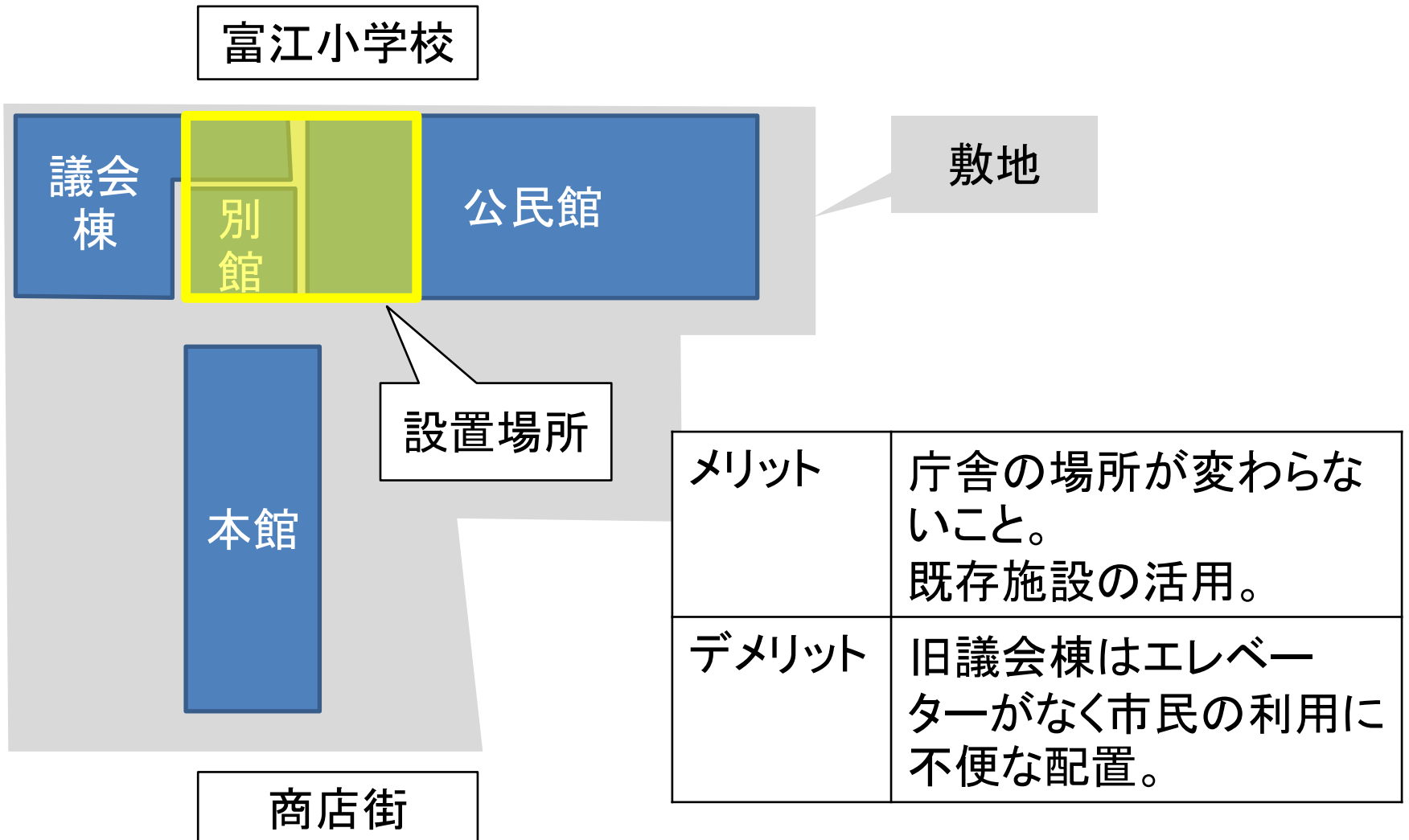
設置場所

とみえ認定  
こども園

ポプラ(コンビニ)

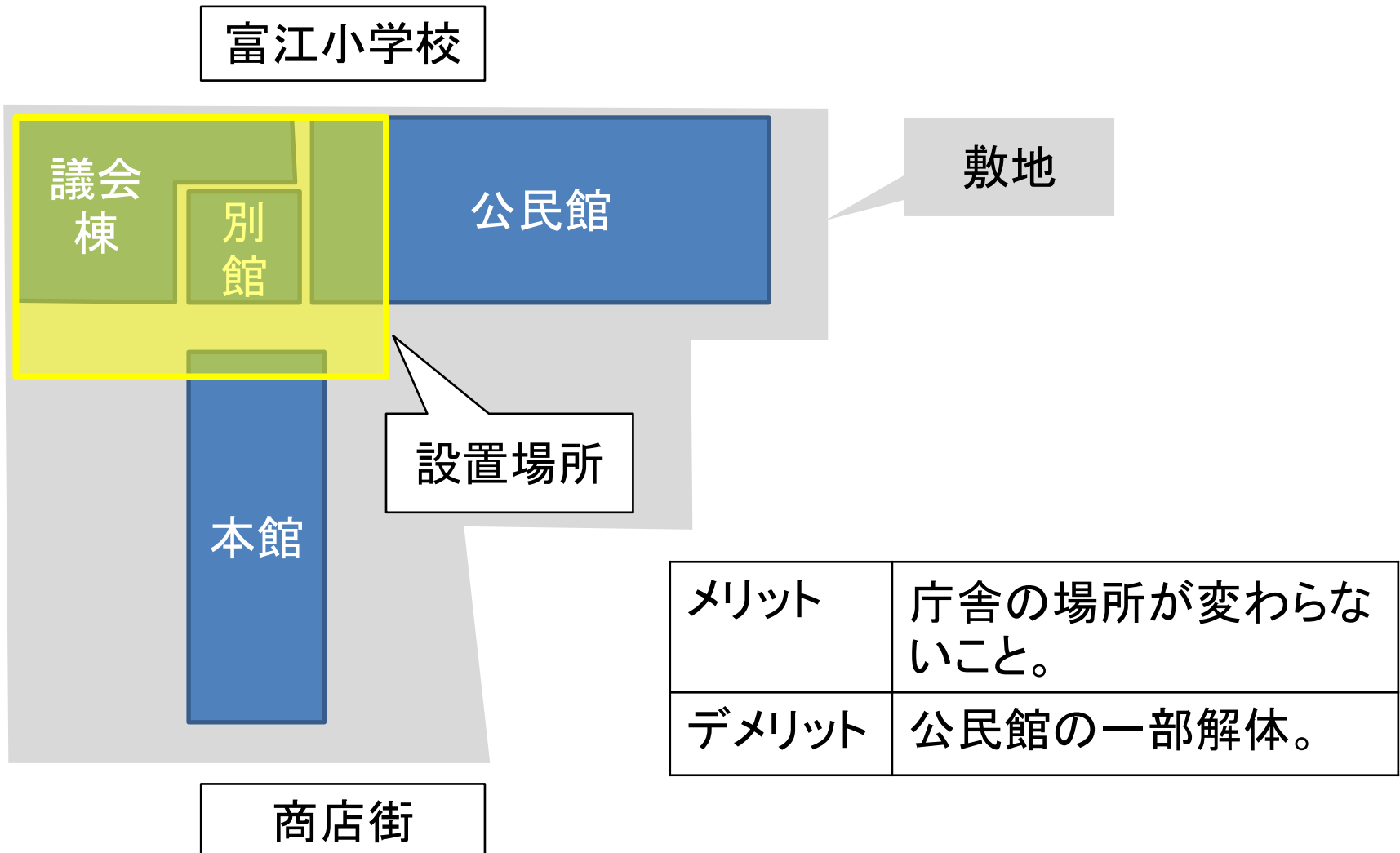


# 整備の方法（第2案） 「別館を解体し建替え」



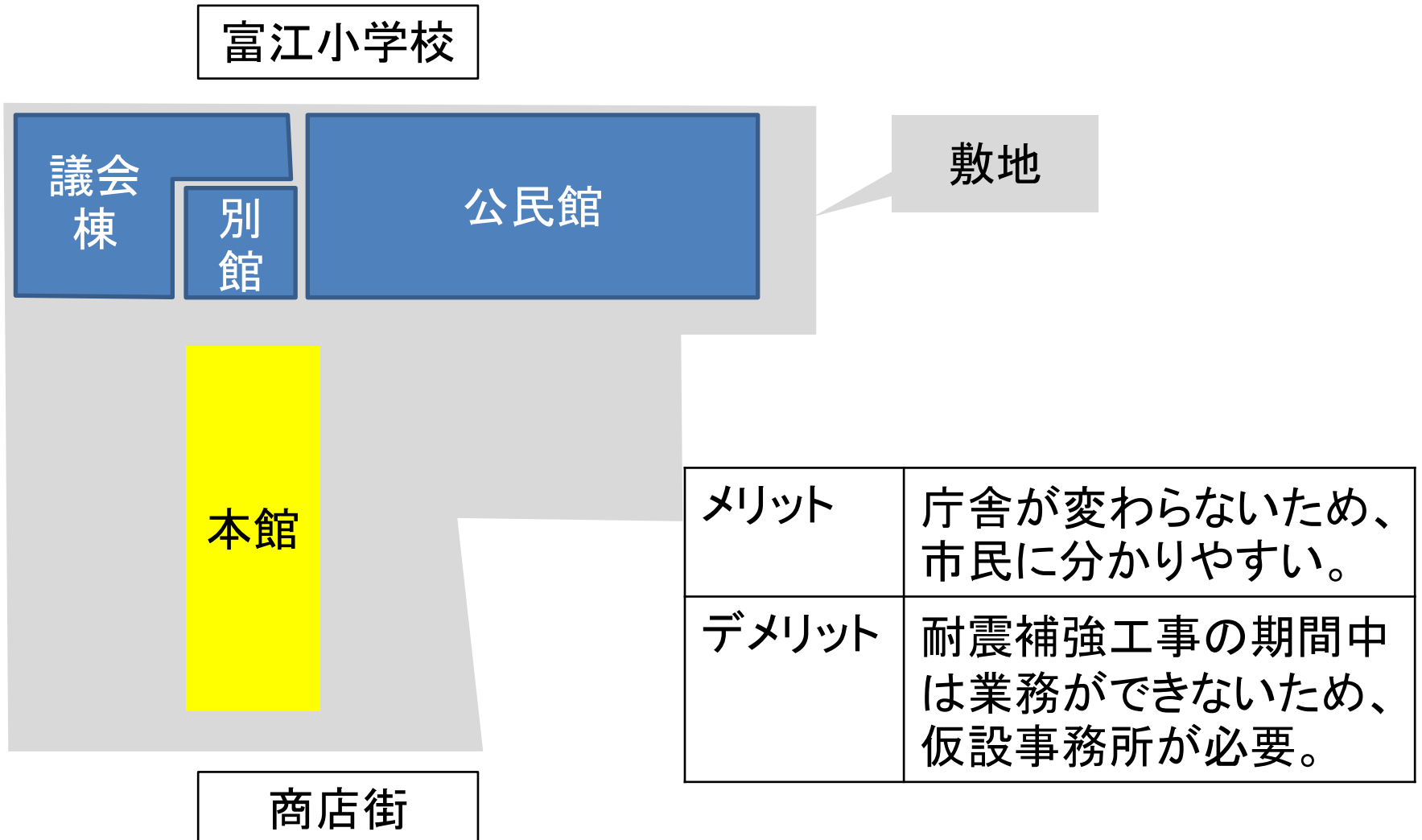
## 整備の方法（第3案）

# 「議会棟・別館を解体し建替え」



# 整備の方法（第4案）

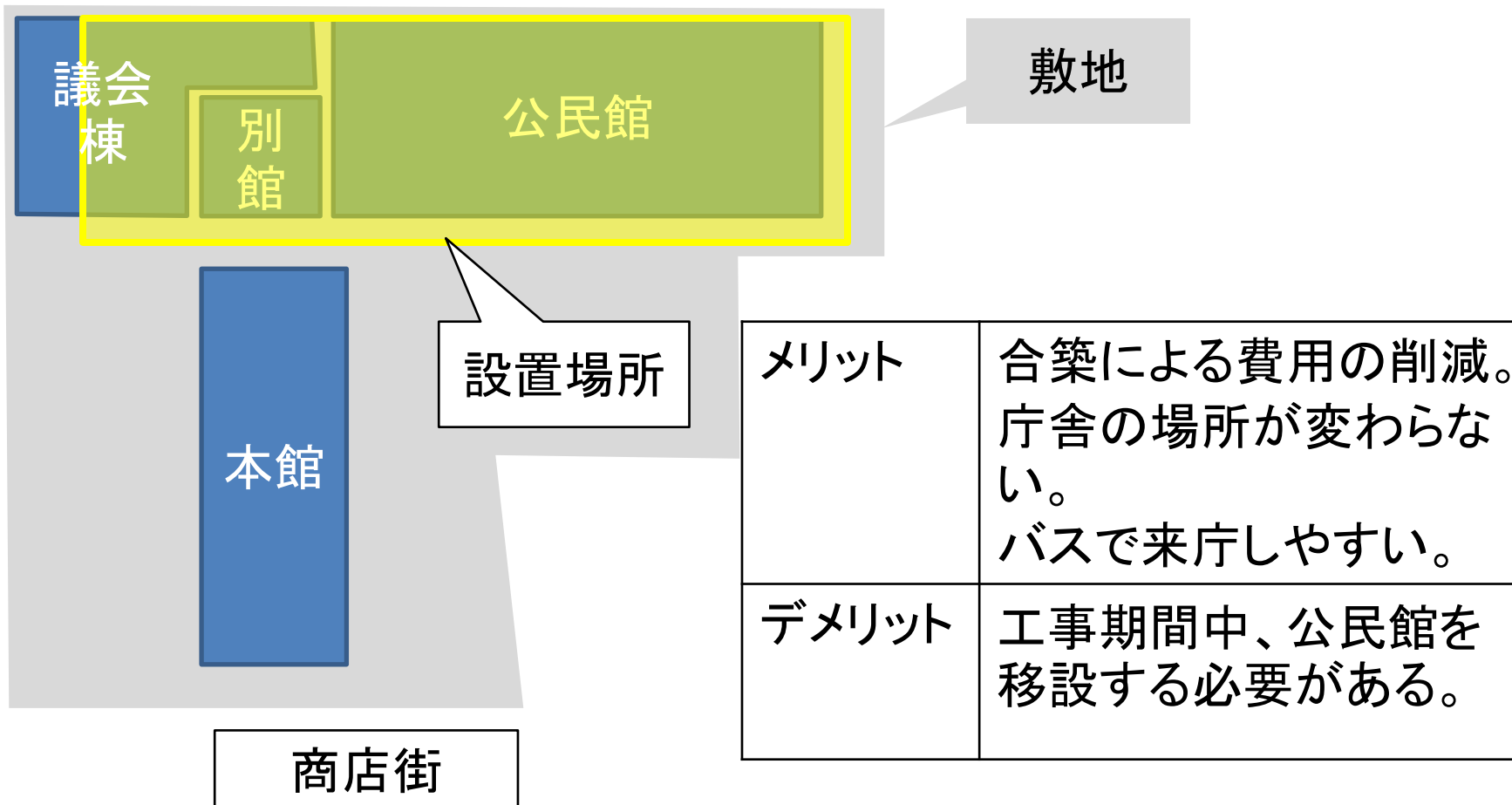
## 「現施設の耐震補強」



# 整備の方法（第5案）

## 「現敷地に公民館と合築で建替え」

富江小学校

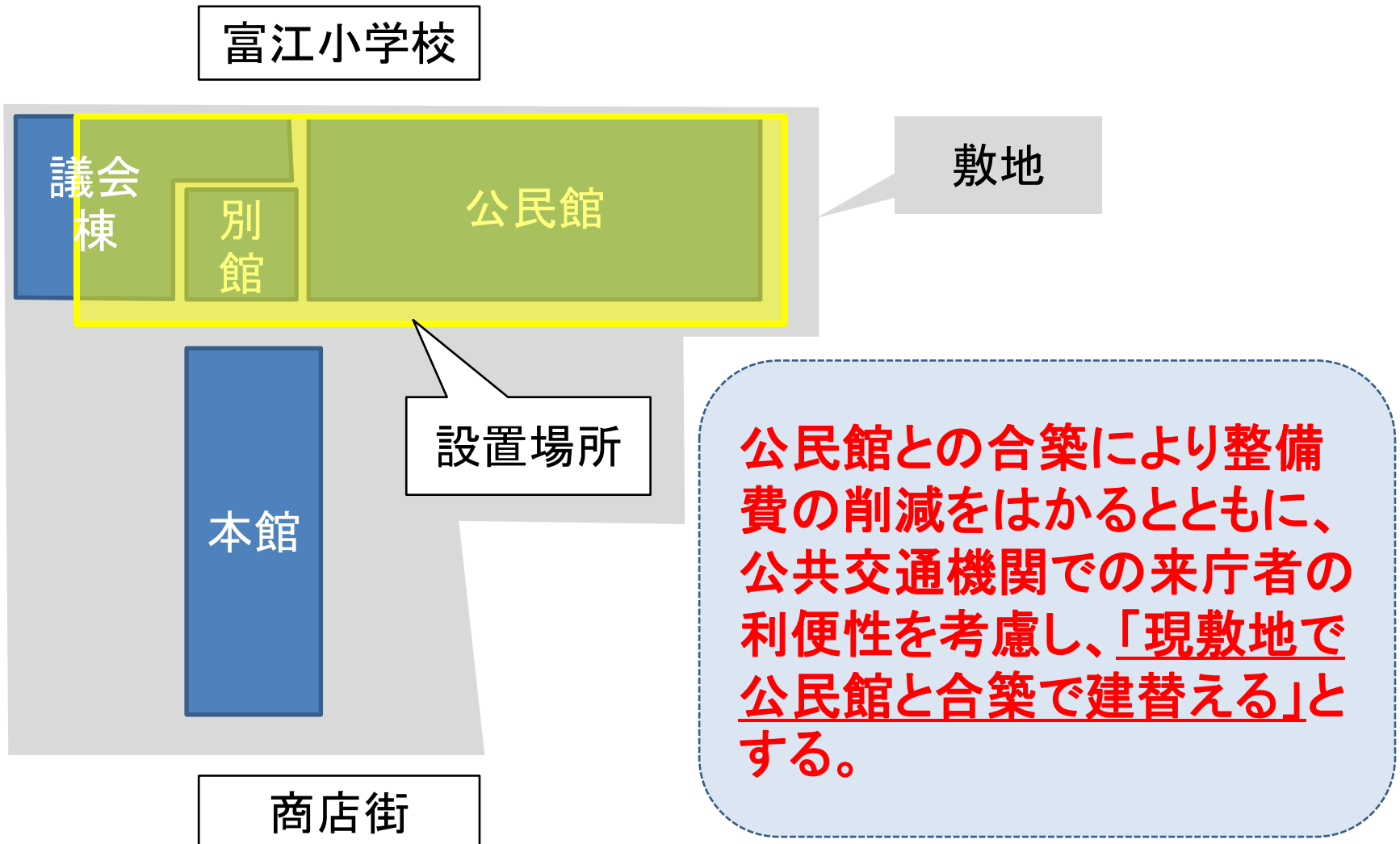


メリット	合築による費用の削減。 庁舎の場所が変わらない。 バスで来庁しやすい。
デメリット	工事期間中、公民館を 移設する必要がある。

# 単年度投資額で比較

	整備面積 (支所庁舎面積)	概算費用 (耐用年数)	単年度投資額
①旧富江高校で合築	375m <sup>2</sup>	3億3000万円 (65年)	510万円／年
②別館を解体し、建替え	375m <sup>2</sup>	3億6300万円 (65年)	560万円／年
③議会棟・別館を解体し、建替え	711m <sup>2</sup>	5億5100万円 (65年)	850万円／年
④既存施設の耐震補強	624.4m <sup>2</sup>	1億6100万円 (9年)	1790万円／年
⑤現敷地で合築	375m <sup>2</sup>	3億3000万円 (65年)	510万円／年

# 富江支所庁舎整備の基本方針（案）



# 三井楽支所庁舎の現状



①本館 S43.7建築 898.7m<sup>2</sup>

②増築棟 S58.3建築 1,113.6m<sup>2</sup>

# 配置イメージ（現在）

総延床面積(①+②)  
2,012.3m<sup>2</sup>

①本館棟 S43建築  
(898.7m<sup>2</sup>)

②増築棟  
S58建築  
(1,113.6m<sup>2</sup>)

(正面玄関側)



# 三井樂支所庁舎のIs値（耐震指標）



①本館 S43建築 Is値=0.43

耐震NG

②増築棟 S58建築(新耐震基準)

耐震OK

# 庁舎改修の必要性とこれまでの経緯

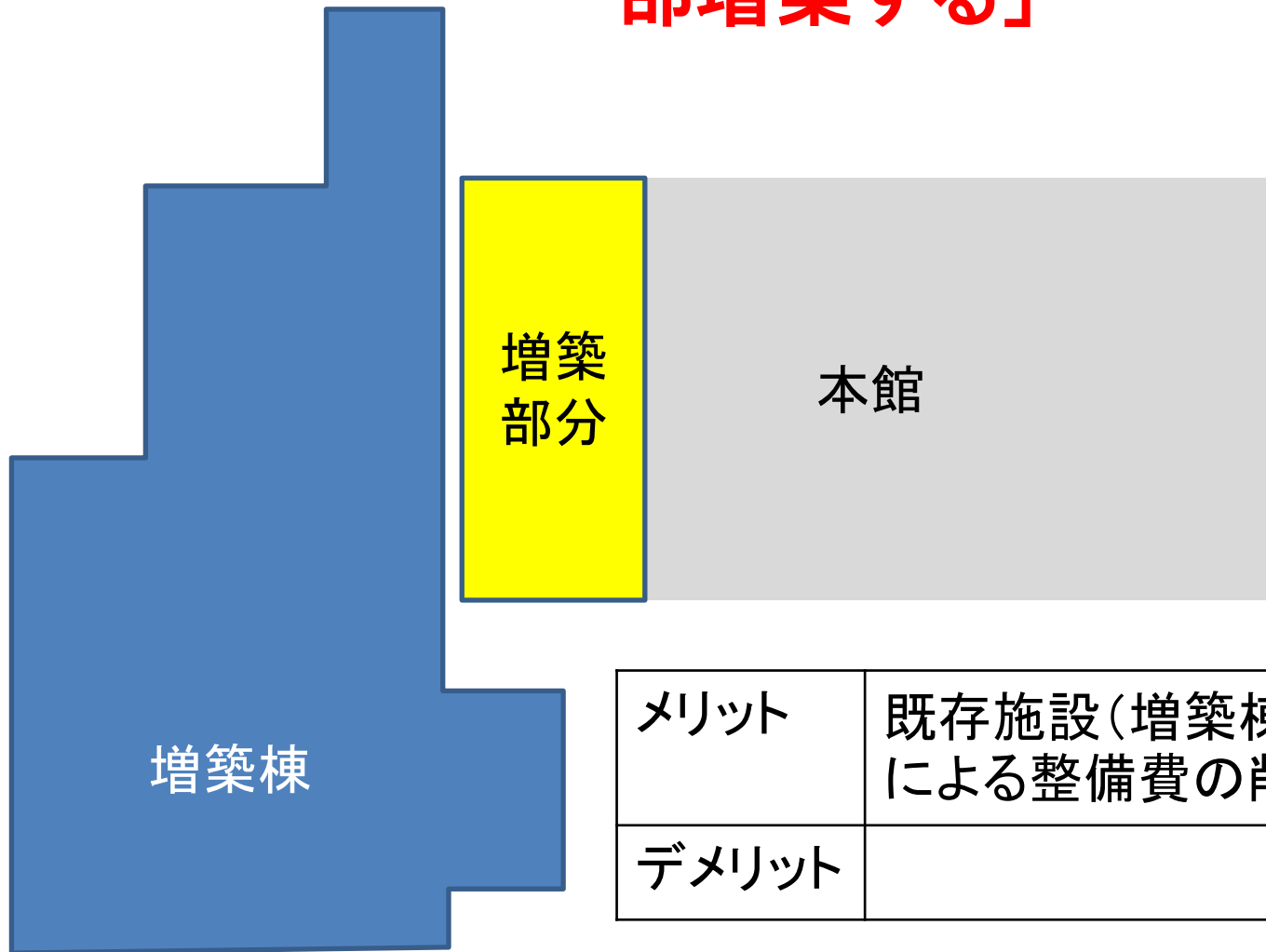
- 三井楽支所本館は、昭和43年に建築し老朽化が進んでいる
- 耐震診断の結果、大規模な地震に対して倒壊または崩壊の危険性があることが判明



**支所庁舎の整備(耐震化)が必要**

## 整備の方法（第1案）

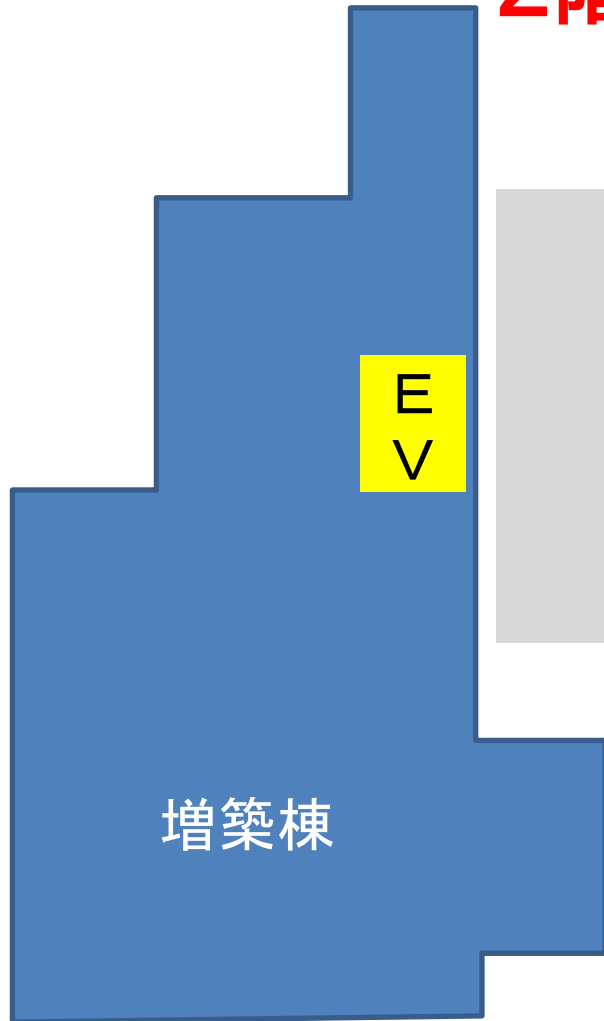
**「増築棟を改修し、不足する機能を一部増築する」**



メリット	既存施設(増築棟)の利活用による整備費の削減。
デメリット	

## 整備の方法（第2案）

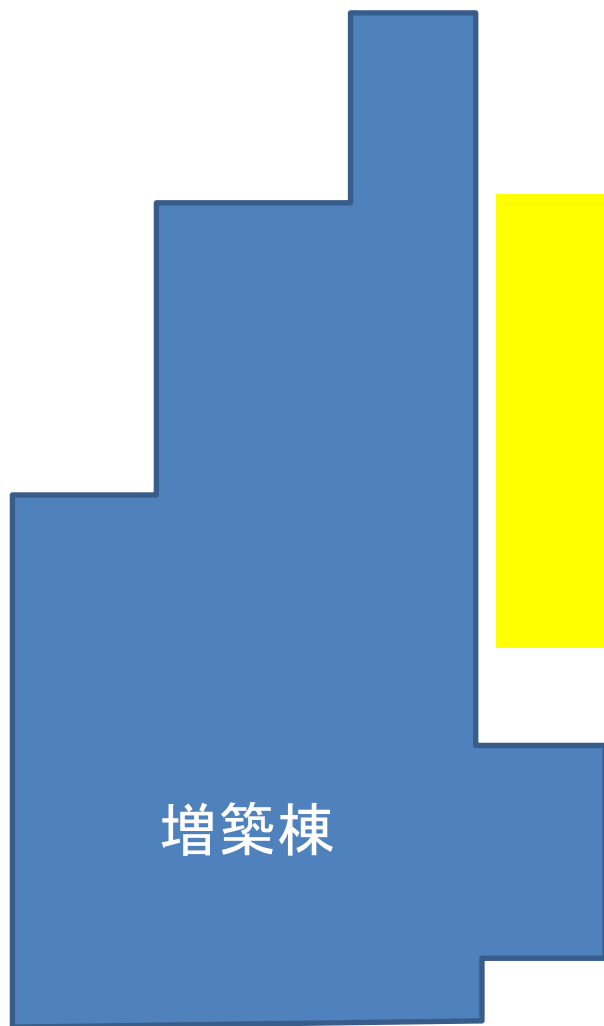
**「増築棟を改修。エレベーターを設置し、  
2階以上を活用する」**



メリット	既存施設(増築棟)の利活用による整備費の削減。増築が不要。
デメリット	

## 整備の方法（第3案）

# 「現施設の耐震補強」

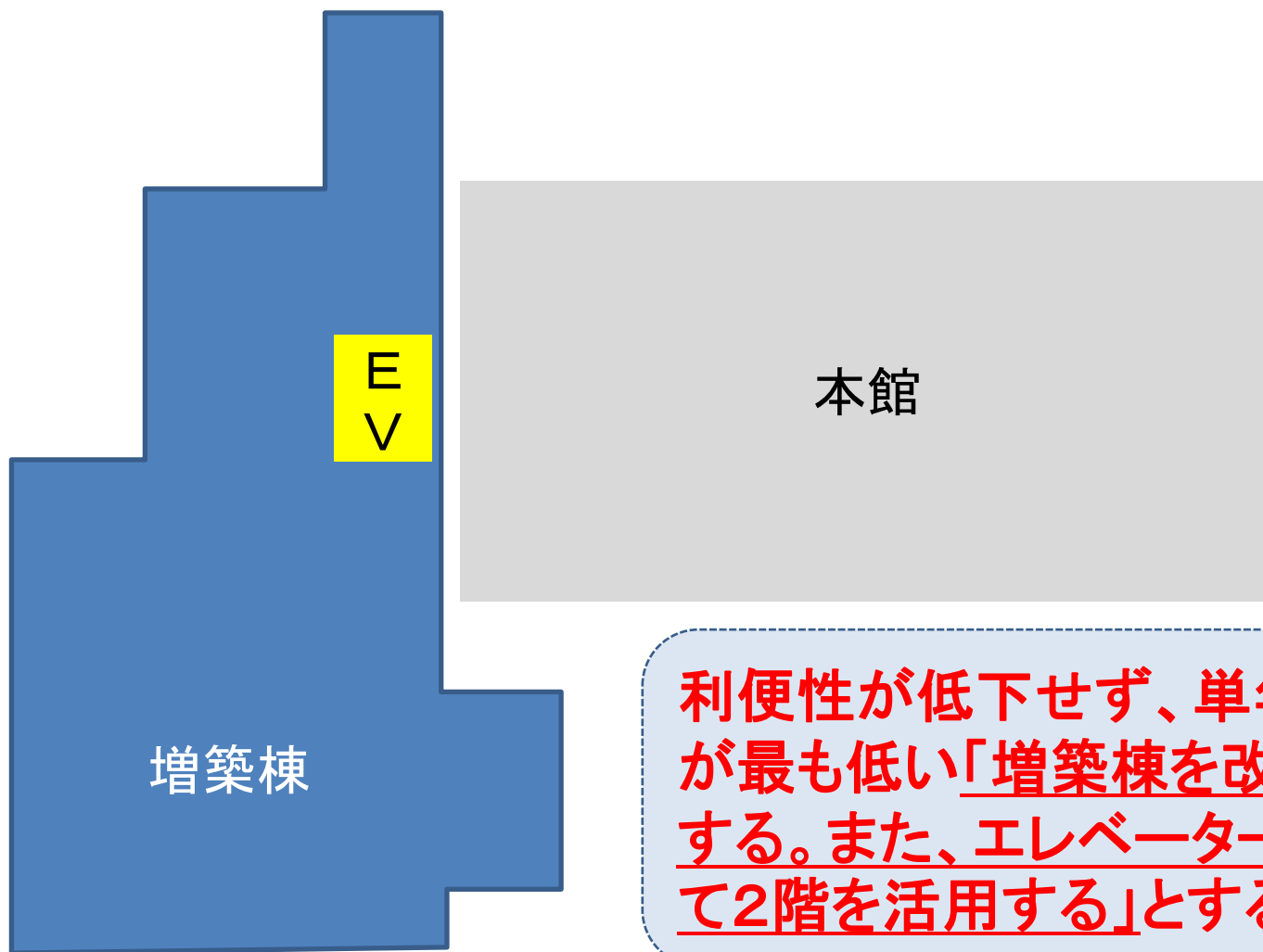


メリット	庁舎が変わらないため、市民に分かりやすい。
デメリット	耐震補強工事の間中は、仮設事務所が必要。

# 単年度投資額で比較

	概算費用 (耐用年数)	単年度投資額
①増築棟を改修し、不足する機能を一部増築する	1億8100万円 (29年)	630万円／年
②増築棟を改修して使用する。また、エレベーターを設置し、2階を活用する	1億5100万円 (29年)	520万円／年
③既存施設を耐震補強	1億600万円 (15年)	710万円／年

# 三井楽支所庁舎整備の基本方針（案）



利便性が低下せず、単年度投資額が最も低い「増築棟を改修して使用する。また、エレベーターを設置して2階を活用する」とする。

# 岐宿支所庁舎の現状



①本館 S46.8建築 1,269.2m<sup>2</sup>

②新館棟 H9.3建築 518.3m<sup>2</sup>



# 配置イメージ (現在)

②新館棟  
H9建築  
(518.3m<sup>2</sup>)

〔 総延床面積(①+②)  
1,787.5m<sup>2</sup> 〕

①本館棟 S46建築  
(1,269.2m<sup>2</sup>)

(正面玄関側)

# 岐宿支所庁舎のIs値（耐震指標）



①本館 S43建築 Is値=0.28

耐震NG

②新館棟 H9建築(新耐震基準)

耐震OK

# 庁舎改修の必要性とこれまでの経緯

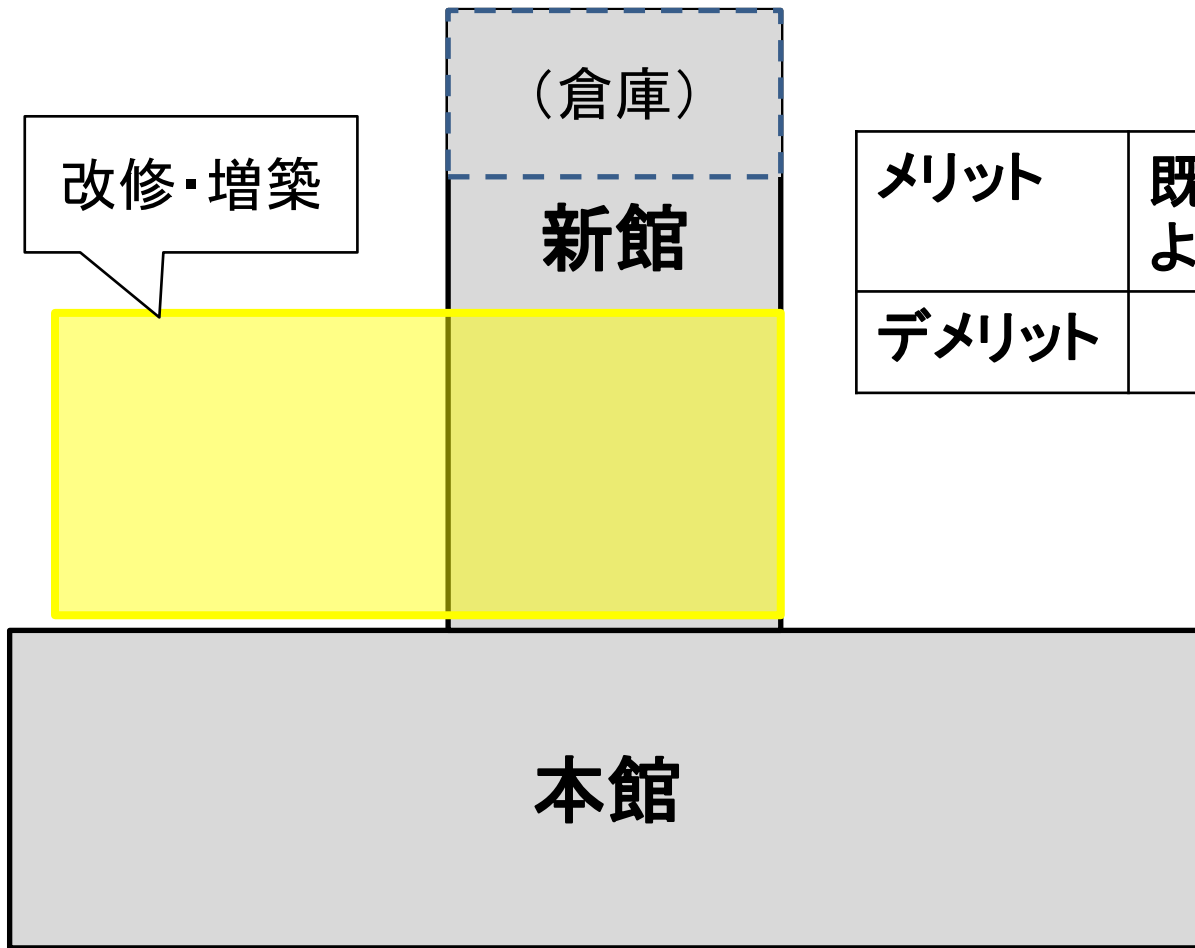
- 岐宿支所本館は、昭和46年に建築し老朽化が進んでいる
- 耐震診断の結果、大規模な地震に対して倒壊または崩壊の危険性が高いことが判明



**支所庁舎の整備(耐震化)が必要**

## 整備の方法（第1案）

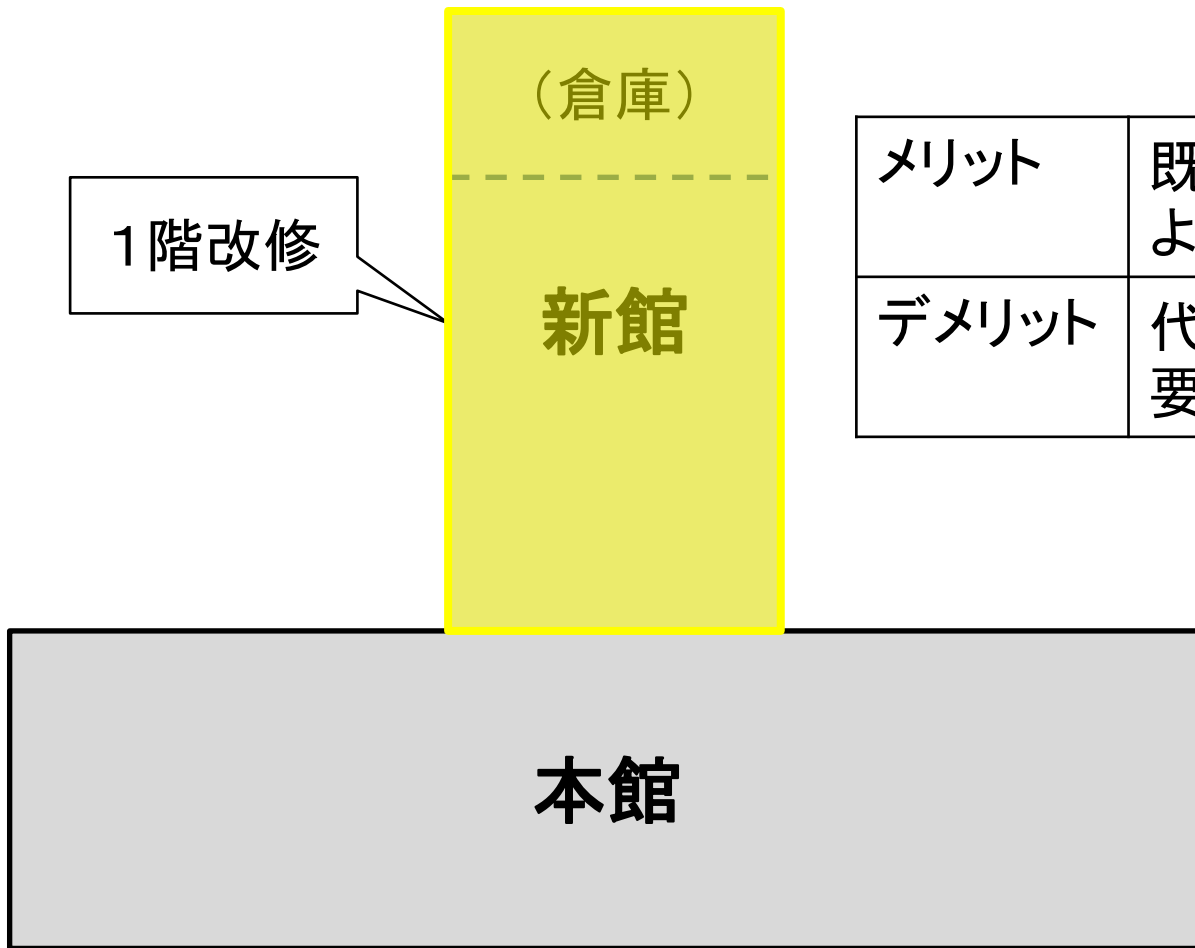
**「新館1階の一部を支所執務室に改修し、  
不足分の面積を増築」**



メリット	既存施設の利活用による整備費の削減
デメリット	

## 整備の方法（第2案）

# 「新館1階を支所執務室に改修」



メリット	既存施設の利活用による整備費の削減
デメリット	代替倉庫の整備が必要

## 整備の方法（第3案）

# 「福江島開発総合センター1階を使用する」

福江島開発総合  
センター

新館

本館

メリット

既存施設の利活用による整備費の削減

デメリット

執務室の分散による住民サービスの低下

## 整備の方法（第4案）

# 「既存施設を耐震補強」

新館棟

メリット

庁舎位置が変わらず、  
市民に分かりやすい

デメリット

耐震補強工事の期間  
中は、仮設事務所が  
必要

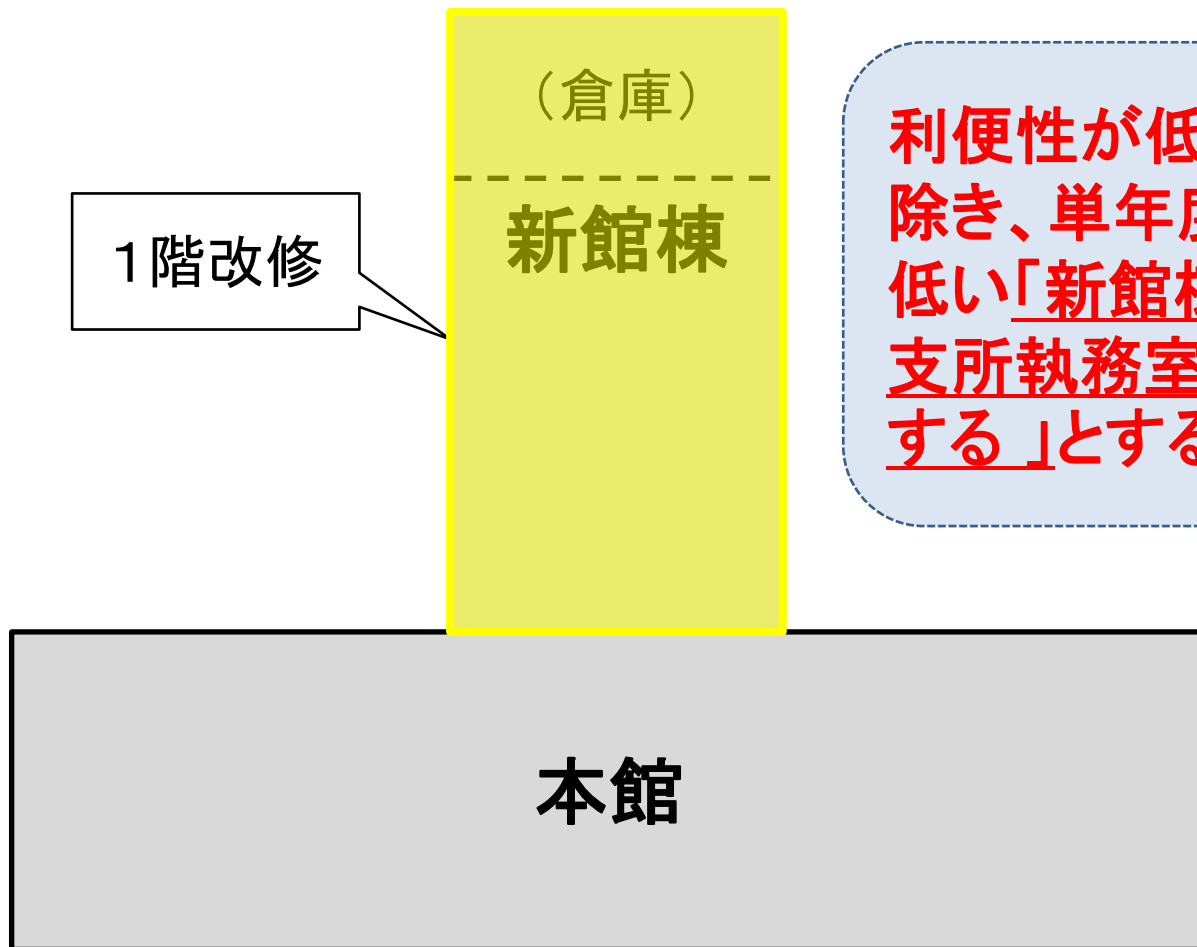
本館

# 単年度投資額で比較

	整備面積 (支所庁舎面積)	概算費用 (耐用年数)	単年度投資額
①新館1階の一部改修、不足分を増築	364m <sup>2</sup>	3億3400万円 (43年・65年)	約690万円／年
②新館1階を改修	392m <sup>2</sup>	2億8300万円 (43年)	約660万円／年
③福江島開発センター1階を使用	防水工事 トイレ改修	1億1700万円 (26年)	約450万円／年
④既存施設を耐震補強	1269.2m <sup>2</sup>	1億8000万円 (18年)	約1000万円／年

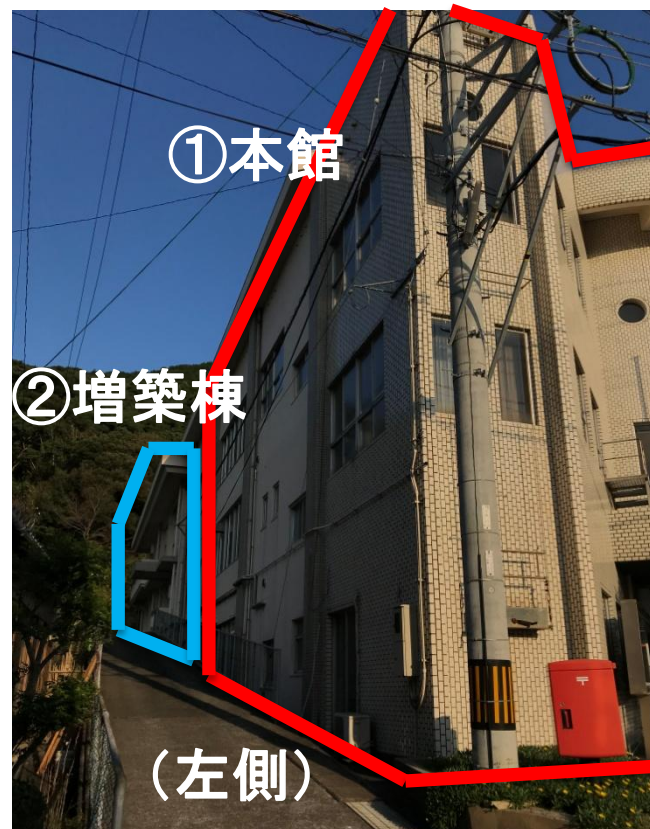


# 岐宿支所庁舎整備の基本方針（案）



利便性が低下する第3案を除き、単年度投資額が最も低い「新館棟の1階をすべて支所執務室に改修して使用する」とする。

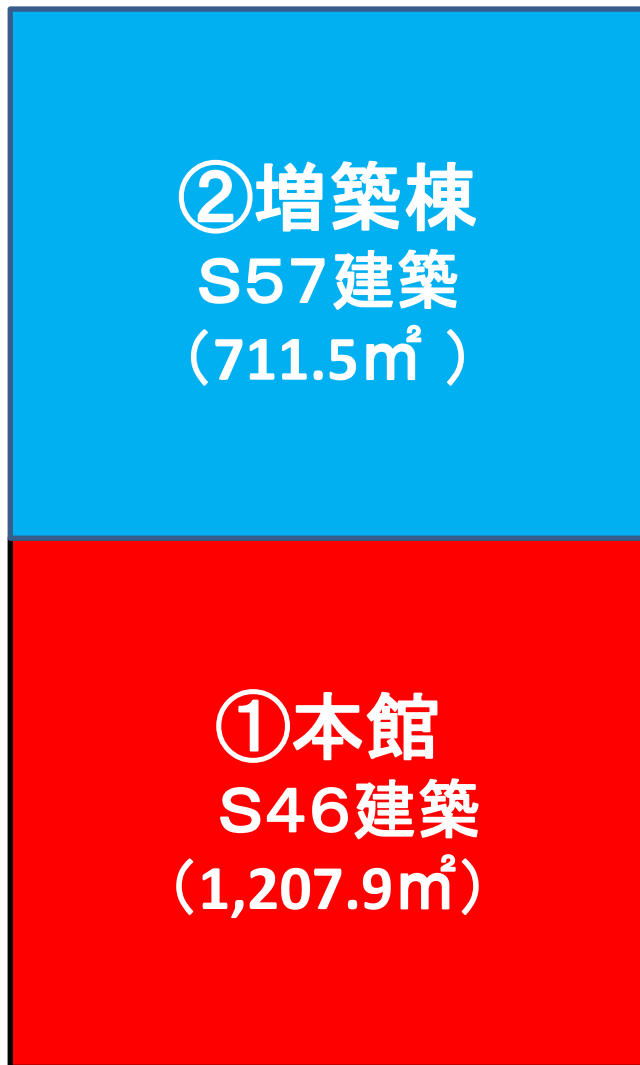
# 奈留支所庁舎の現状



①本館 S46.7建築 1,207.9m<sup>2</sup>

②増築棟 S57.3建築 711.5m<sup>2</sup>

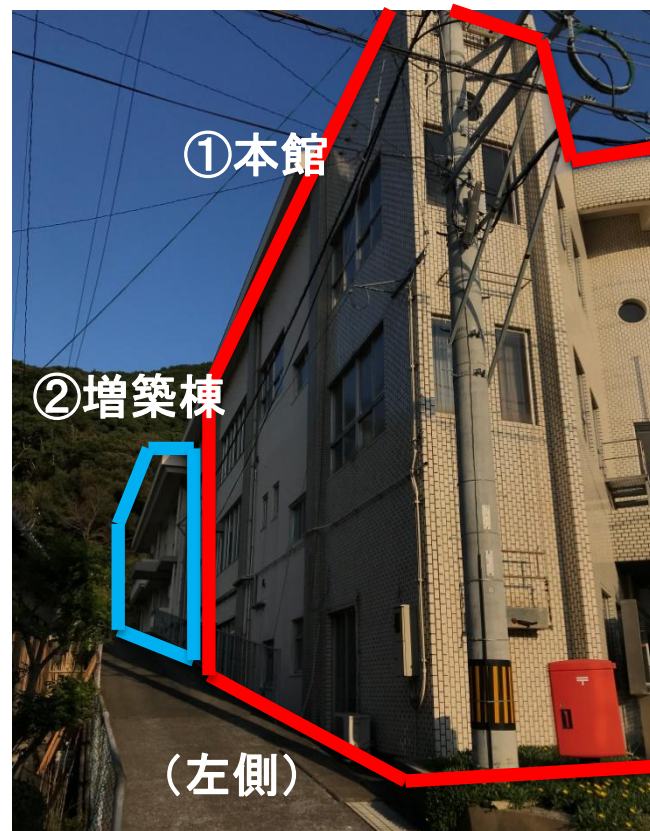
# 配置イメージ（現在）



総延床面積(①+②)  
1,919.4㎡

(正面玄関側)

# 奈留支所庁舎のIs値（耐震指標）



①本館 S46建築 Is値=0.11

耐震NG

②増築棟 S57建築 Is値=0.51

耐震NG

# 庁舎改修の必要性とこれまでの経緯

- 奈留支所本館は、昭和46年に建設し老朽化が進んでいる
- 耐震診断の結果、大規模な地震に対して倒壊または崩壊の危険性が高いことが判明
- 昭和57年に建設した増築棟も耐震性が低く、大規模な地震に対して倒壊または崩壊の危険性があることが判明

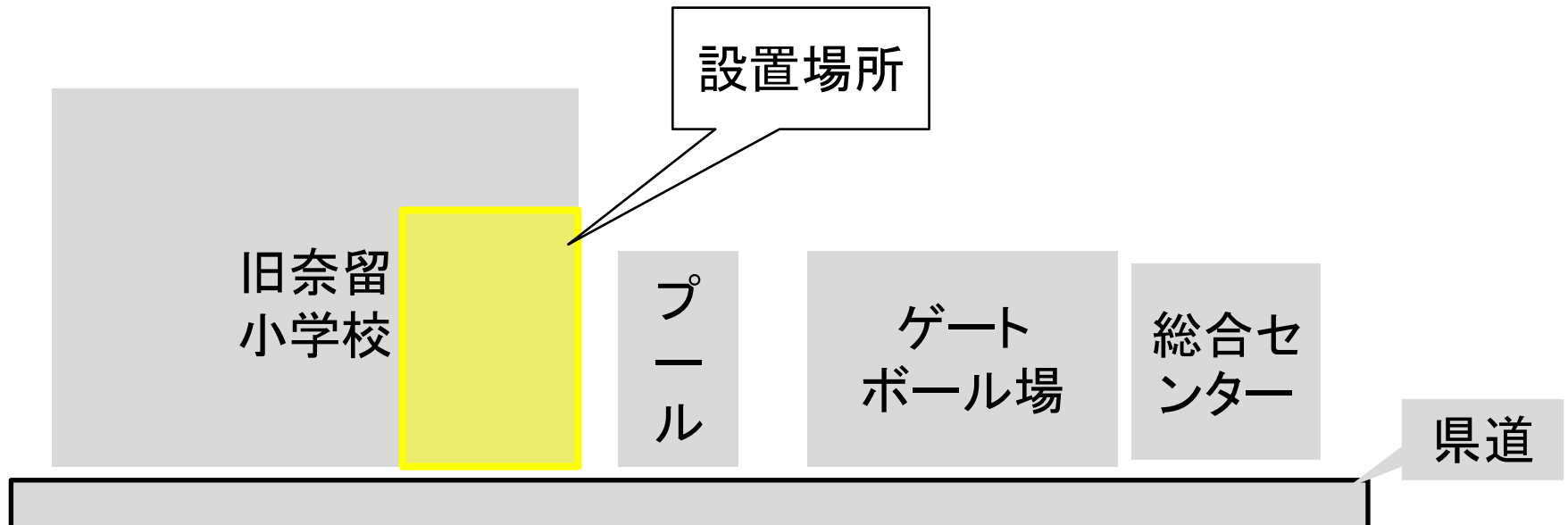


**支所庁舎の整備(耐震化)が必要**

# 整備の方法（第1案）

## 「旧奈留小学校敷地に建替える」

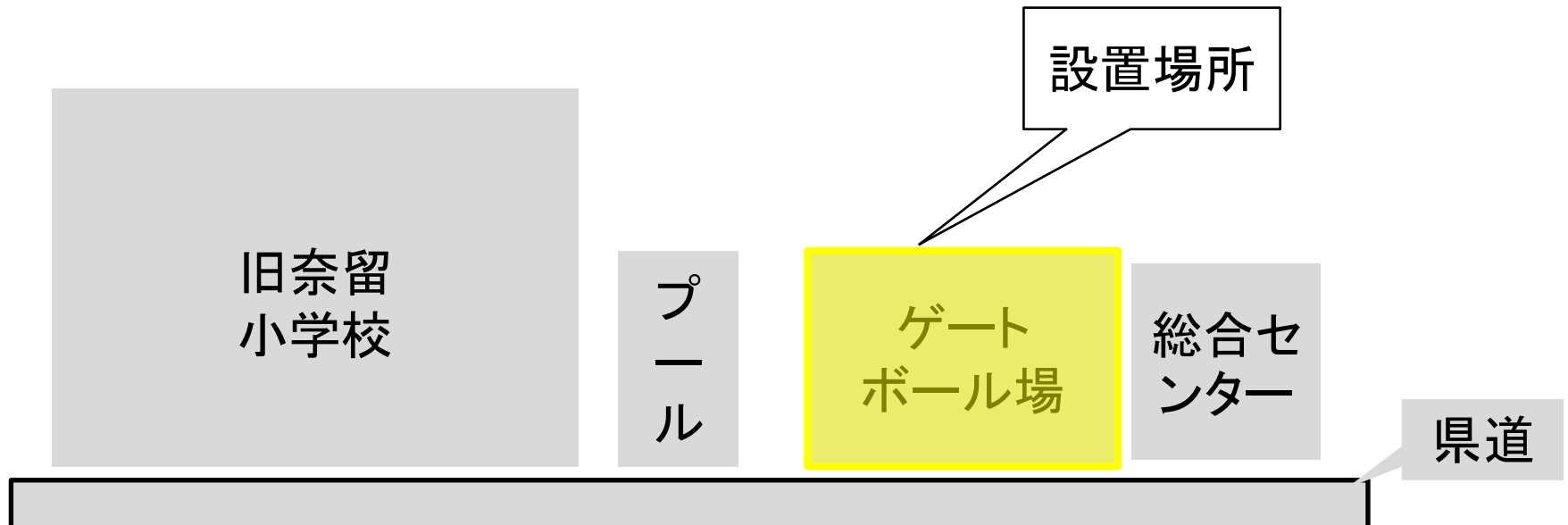
メリット	既存施設の利活用による、整備費用の削減。 敷地面積が広い。
デメリット	奈留総合センターまで、 離れている



## 整備の方法（第2案）

# 「奈留総合センター横に建替える」

メリット	奈留総合センターに隣接するため、会議室が利用しやすい。
デメリット	道路からの見通しが悪い



## 整備の方法（第3案）

# 「現施設（本館のみ）を解体し、建替える」



メリット	庁舎の位置が変わらないため、市民に分かりやすい
デメリット	解体後の建築のため、仮設事務所への移転が必要

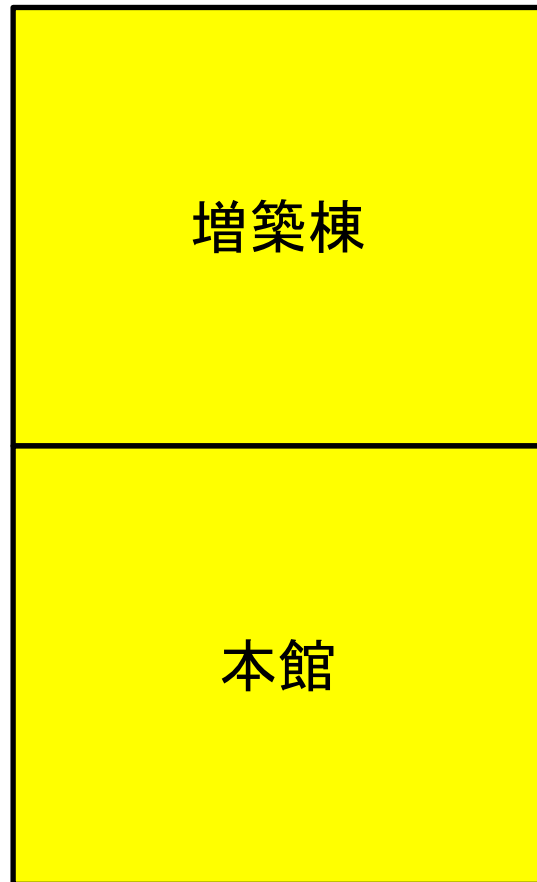
耐震補強

支所新設



## 整備の方法（第4案）

# 「現施設を耐震補強」



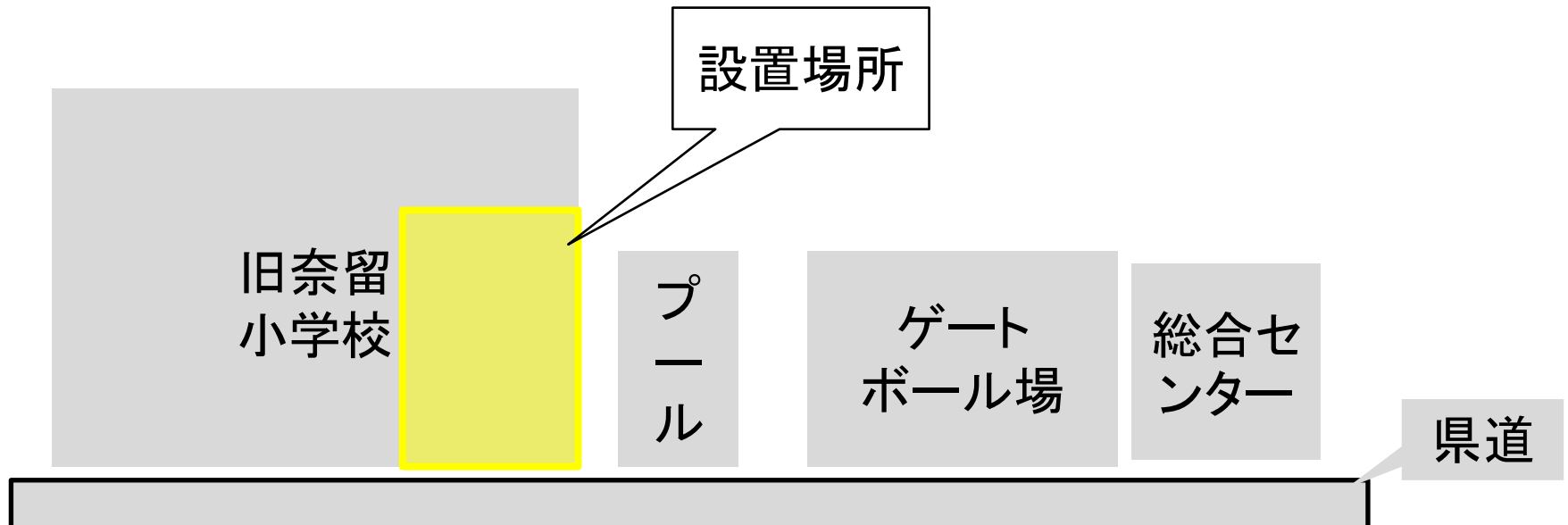
メリット	庁舎の位置が変わらないため、市民に分かりやすい
デメリット	耐震補強工事の間中は業務ができないため、仮設事務所への移転が必要

# 単年度投資額で比較

	整備面積 (支所庁舎面積)	概算費用 (耐用年数)	単年度投資額
①旧奈留小学校に建替え	461m <sup>2</sup>	4億5200万円 (65年)	約700万円／年
②奈留総合センター横に建替え	461m <sup>2</sup>	4億6900万円 (65年)	約730万円／年
③現施設(本館のみ)を解体し、建替え	307m <sup>2</sup> (1207.9m <sup>2</sup> )	3億5600万円 (65年・28年)	約770万円／年
④既存施設を耐震補強	1919.4m <sup>2</sup>	2億8900万円 (18年)	約1600万円／年

# 奈留支所庁舎整備の基本方針（案）

単年度投資額が最も低い「旧奈留小学校敷地に建替え」とする。



# 今後検討する庁舎の機能・性能

## 1 案内・窓口機能

- ① プライバシーに配慮したカウンターの設置
- ② 誰にでも利用しやすいように動線を考慮し、大きく見やすい表示板の設置

# 今後検討する庁舎の機能・性能

## 2 市民サービス機能

- ①通路の幅員を十分に確保するとともに、段差の少ないフロアとする
- ②車いす利用者等に対応した多目的トイレを確保
- ③子供連れの利用者が安心して用を済ませることができるよう、授乳室等を検討

# 今後検討する庁舎の機能・性能

## 3 行政執務室機能

- ①フロア全体を有効活用できる平面構成で、オープンフロアを基本とする
- ②書類の保管は、個人情報の保護が徹底管理できるよう計画
- ③フリーアクセスフロアを検討




# 今後検討する庁舎の機能・性能

## 4 施設管理機能

- ①セキュリティに配慮した庁舎
- ②シャッター等によるエリア区分を検討
- ③敷地内は、できるだけ緑を活用
- ④地元産木材を使用した内装等を検討

# 支所庁舎整備基本計画策定スケジュール

## 【スケジュール予定】

	11月	12月	1月	2月	3月
方針説明会					
計画案作成					
パブリック コメント (意見公募)					
計画策定					